

Lyric Colors

リリック カラーズ

vol.13

2024
6.25発行
TAKE
FREE

あなたの毎日に
芸術文化の
いろどりも。



スペシャルインタビュー

文学座公演 オセロー

第22回 澤クワルテットコンサート with ヘンシェル&フレンズ 蓼沼恵美子

特集

リリック・ジュニア・アンサンブル 一人ではつくることのできない“ハーモニー”

注目公演

野村万作・萬斎 狂言公演

仲道郁代 ピアノ・リサイタル ～シューベルトの心の花～

9/4

リリックホール シアター
開場/18:30
開演/19:00

野村万作・萬斎 狂言公演

全席指定 5,500円 [U-25] 2,500円 ※未就学児入場不可

チケット好評発売中



撮影：政川慎治

「釣針」
つりばり

太郎冠者 野村萬斎

「月見座頭」
つきみざとう

座頭 野村万作

上京の男 高野和憲

◆解説 野村 萬斎

小舞「田植」

野村 裕基

地謡 中村 修一

内藤 連

飯田 豪

後見 中村 修一

後見 中村 修一

後見 中村 修一

後見 中村 修一

後見 中村 修一

後見 中村 修一

後見 中村 修一

後見 中村 修一

後見 中村 修一

後見 中村 修一

人間国宝 野村万作、多岐に渡り活躍する萬斎、若さ溢れる裕基——
3世代で繋ぐ 伝統芸能 狂言
毎年開催している狂言公演。今回は、映画・ドラマなどでも活躍している野村萬斎が狂言の魅力をつつりと解説します。そして、昨年、文化勲章を受章した野村万作が、更なる高みを目指し、奥深い狂言の世界をお届けします。

《あらすじ》

月見座頭 つきみざとう

仲秋の名月の夜。座頭が河原で虫の音に聞き惚れていると、洛中から月見にきたという若い男が声をかける。歌の詠み合いで意気投合した二人は、謡いつ舞いつさやかな酒宴を楽しむ。和やかなうちに別れの挨拶をかわし、座頭は気分良く帰途に着くが、突然……。

釣針 つりばり

独り身の主人が、同じく妻を持たない太郎冠者と共に妻を得ようと西宮の夷に参詣すると、西門に置いてある釣針で妻を釣るよう夢のお告げを賜る。太郎冠者は主人に続いて、数人の腰元、さらには自身の妻を釣り上げる。主人が奥へ入った後、太郎冠者は自分の妻に對面するのだが……。

9/14

リリックホール コンサートホール
開場 13:30
開演 14:00

ユニオン ツール クラシックプログラム vol.27

仲道郁代 ピアノ・リサイタル ～シューベルトの心の花～

全席指定 3,000円 [U-25] 1,000円 ※未就学児入場不可

チケット好評発売中

ピアノズムの心境地に挑む — シューベルトの即興曲

2002年からスタートした「ユニオンツールクラシックプログラム」は、日本を代表するピアニスト 仲道郁代を迎え、仲道郁代が構想した豊かな実り多いピアノ曲を配しています。昨年、リリックホールで開催した「ブラームスの想念」では、作曲家の想いが紡ぎだされるような演奏を披露し好評を博しています。今年のタイトルは、「シューベルトの心の花」。作曲家たちの思想、哲学、苦悩、人生観に長年向き合ってきた仲道郁代ならではの天上の響きをお楽しみください。

[曲目] シューベルト：4つの即興曲 D.899 Op.90
シューベルト：4つの即興曲 D.935 Op.142 ※曲目・曲順は変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

【仲道郁代 プロフィール】

日本音楽コンクール第1位、ジュネーヴ国際音楽コンクール最高位、メンデルスゾーン・コンクール第1位、エリザベート王妃国際音楽コンクール入賞。ピッツバーグ響、バイエルン放送響、フィルハーモニア管、ドイツ・カンマーフィル、ハンガリー国立フィル、バンクーバー・メトロポリタン・オーケストラ等、海外のオーケストラと共演多数。CD はレコード・アカデミー賞受賞CDを含む「仲道郁代 ベートーヴェン集成～ピアノ・ソナタ&協奏曲全集」「ドビュッシーの見たもの」他。著書に『ピアニストはおもしろい』（春秋社）等。ベートーヴェン没後200周年の2027年に向けて「仲道郁代 The Road to 2027 リサイタル・シリーズ」を展開中。一般社団法人音楽がヒラク未来代表理事、一般財団法人地域創造理事、桐朋学園大学教授、大阪音楽大学特任教授。令和3年度文化庁長官表彰、ならびに文化庁芸術祭「大賞」を受賞。

【表紙】

「リリック・ジュニア・アンサンブル」の活動の様子。詳細は特集ページ(6・7ページ)をご覧ください。

Lyric Colors vol.13
〈2024年6月25日発行〉

発行(公財)長岡市芸術文化振興財団

〒940-2108 新潟県長岡市千秋3丁目1356番地6

TEL.0258-29-7715 <https://www.nagaoka-caf.or.jp/>



オフィシャル・ホームページ
<https://www.ikuyo-nakamichi.com>



Message

公演を直前に控え、舞台稽古真っ只中の「オセロー」の主要キャスト、横田さん、saraさん、浅野さんから長岡公演に向けたメッセージをいただきました！



1994年文学座附属演劇研究所入所、1999年座員に昇格。文学座初舞台は1996年『特ダネ狂騒曲』。2019年『ヘンリー五世』『The Silver Tassie 銀杯』の演技に対して第26回読売演劇大賞・優秀男優賞受賞。文学座公演に限らず、外部公演では蜷川幸雄演出作品など多数の舞台に出演。近年は映画、テレビドラマ、CMなど、活躍は多岐にわたる。

横田 栄司（オセロー役）
文学座に入って30年経ちますが、文学座でメインの役を演じることは若い頃からの憧れでした。そんな思いを抱えながらも、なかなか縁がなく出演することが少なかった分、外部の舞台で経験を積んできました。今回やっと文学座に帰ってきて、オセローを演じることができるのは大変光栄だし、重責を感じております。僕が演じるオセローは立派な人ではありませんが、嫉妬に狂った姿も徐々に見えてきます。僕は、その愚かな部分はコンプレックスから生じたものかなと感じています。蓋をして隠していた劣等感をイアーゴーにつつかれ、あのような悲しい最後になつてしまったのではと今は漠然と考えています。長岡は僕自身、初めて参ります。文学座がいつもお世話になってる長岡のみなさんのお眼鏡にかなうよう、しっかり稽古して伺います。



2019年文学座附属演劇研究所入所、2024年座員に昇格。23年に準座員でありながらミュージカル『ドリームガールズ』（梅田芸術劇場シアター・エスト）等、大活躍中の大型新人であり、本作が文学座初舞台となる。最近ではミュージカル『VIOLET』に出演。また、ブロードウェイミュージカル『イン・ザ・ハイツ』の出演も控えている。

Sara（デズデモナ役）
この春文学座座員となりました、saraです。『オセロー』は、私にとって文学座初舞台作品となります。特別な想いでいっぱいこの作品を、長岡で上演させていただけるととても嬉しく、光栄に思います。『オセロー』に出てくる登場人物は皆、伸るか反るかという状況で自分でも知らなかった底力を発揮するような、生命力にあふれたキャラクターたちです。そんな個々のエネルギーがぶつかり合うと何が生まれるのか、そしてそのエネルギーが劇場空間をどう変化させることができるのか、長岡の地でどんな化学反応が生まれるのか……今からドキドキしています。劇場で皆さまにお会いできますことを、楽しみにしております！



1994年文学座附属演劇研究所入所。劇団内外問わず、様々な演出家による舞台、映像作品に参加している。本作演出の鶴山仁、出演の石橋徹郎とのユニット「イマシバシノアユサ」や、作・演出に鄭義信との「劇団ヒトハダ」を立ち上げるなど、プロデュース活動も精力的に行っている。

浅野 雅博（イアーゴー役）
シェイクスピアと聞いて重々しいイメージを持つ方も多いのではないのでしょうか。四大悲劇の一つなんて言われた日にはもうそれ確定。かくいう私もそうでしたが、そんな私だからこそお伝えしたい。今回はそんな感覚は置いてきて大丈夫。ゲームのオセロしかり（この作品の由来）、人間の表と裏を主題にした傑作です。登場人物も少なく皆個性的。私演じるイアーゴーもこれまたよく喋っておりますがその「裏」が透け透けなのが面白く。主役オセロー演じる横田君（唯一同期男子）とは実は劇団初共演。シェイクスピア劇キャラクター豊富な彼とがつつり演れることも個人的に楽しみです。長岡の皆様、万全を期して参ります。どうぞ宜しくお願い致します。

文学座公演 オセロー

完売御礼

作：ウィリアム・シェイクスピア 訳：小田島雄志 演出：鶴山仁

7/15月祝 開場 13:00 開演 13:30
長岡リリックホールシアター

〔出演〕石川 武（ヴェニスの公爵） 高橋ひろし（ブラバンショ／グレースアーノ） 若松泰弘（モンターノ） 浅野雅博（イアーゴー）
横田栄司（オセロー） 石橋徹郎（ロダリゴ） 上川路啓志（キャンオー） 棚橋朋典（ロドヴィコー）
千田美智子（ピアンカ） 増岡裕子（エミリア） 萩原亮介（役人ほか） sara（デズデモナ） 河野顕斗（紳士ほか）

文学座公演

オセロー

今年の文学座公演はシェイクスピアの“四大悲劇”のひとつ「オセロー」を上演します。演出には、シェイクスピア作品で定評のある鶴山仁さん。そこに実力派揃いの文学座の豪華俳優陣が、過剰なまでのセリフが溢れる、濃厚なシェイクスピアの世界を創り上げます。今回はシェイクスピアの魅力や公演の見どころを、演出・鶴山仁さんから教えていただきました。



Special Interview
鶴山 仁（文学座 演出）

強烈なシェイクスピア体験をぶちかまします！
シェイクスピアの面白さは、何と言っても善意と悪意、愛と憎しみ、喜びと悲しみ、そしてもしかしたら生と死、それら相反する世界の境界線をぶつ壊してしまおうような、混沌反乱のエネルギーにあると思います。同じシェイクスピアの『ハムレット』には有名な“To be or not to be, that is the question.”というセリフがありますが、このセリフの be の部分には、例えば“love”だったり、“live”だったり、また“die”だったり、いろんな動詞が代入できる。いずれにせよ問題なのは、“to be”“not to be”のどちらが正しいか、なんてことではなく、二つの対立項の間で、絶えずあれかこれかと振幅する、運動と変化のエネルギーの豊かさだと思っています。
『オセロー』は、そんなシェイクスピア作品の中でも指折りの、言葉の呪力が途方もない深度と広がりを見せる戯曲ですね。イアーゴーがオセローの嫉妬心に火をつけ、オセローがその毒に溺れる。そういうむしろ「息のあった」応酬が、更に果てしない憎悪の自己増殖を生み、やがて荒唐無稽なまでのレベルにまで上り詰める。これは数あるシェイクスピアの劇的対話の中でも、異彩を放つやりとりです。二人の丁々発止には、例えば足裏のツボを押すと心臓の鼓動が止まるというような、言葉による遠隔ツボ押し効果、その恐ろしさ、面白さがあふれています。演劇ならではのこんな醍醐味を、さてわれわれがどう立体化できるか、僕自身、今からとても楽しみです。

〈鶴山 仁 プロフィール〉
慶應義塾大学文学部フランス文学科卒業、舞台芸術学院を経て文学座附属演劇研究所に入所。現在、文学座演出部所属。2007年9月から2010年8月まで新国立劇場の第四代演劇芸術監督を務める。1989年に芸術選奨文部大臣新人賞、2002年に紀伊國屋演劇賞、2004年、10年、16年に読売演劇大賞・最優秀演出家賞。2010年に芸術選奨文部科学大臣賞、20年に紫綬褒章、21年に毎日芸術賞を受賞。主な演出作品に『グリークス』（文学座）、『父と暮せば』（こまつ座）、『ヘンリー六世』『リチャード三世』『ヘンリー四世』『ヘンリー五世』『リチャード二世』（新国立劇場）など。

今回出演する役者たちは、とにかく面白い連中です。オセローを演ずるのは久々に舞台に復帰する横田栄司、イアーゴーには横田と同期の好漢、浅野雅博、そしてデズデモナには文学座の公演では初登場となるsaraと、話題性にも事欠きません。彼ら以外にも、長年にわたって苦業を共にし、一緒に芝居を作ってきたかけがえのないベテラン、中堅の諸君、そしてピカピカの劇団研修生まで、とにかく皆さんの期待を裏切らない、一騎当千の俳優たちが勢揃いしました。
長岡の皆さんに、強烈なシェイクスピア体験をぶちかましたいと、スタッフキャストはそれぞれ手ぐすね引いて、7月の公演日を待ち構えています。僕らがお届けしたいのは、僕ら自身がこれまで聞いたことも見たこともない魅力的な声、魅力的な表情でもって織りなされた究極のドラマです。シェイクスピアと『オセロー』の作品世界の大きさと奥行きが、ありきたりの人間ドラマのスケールを超えて、未知の宇宙を垣間見ることができるよう、怪しくも楽しい経験を保証してけると信じています。

第22回 澤クワルテットコンサート

with ヘンシェル & フレンズ 蓼沼恵美子



今年の澤クワルテットは、度々共演を重ねているドイツ正統派弦楽四重奏団、ヘンシェル・クワルテットのメンバーとピアニスト蓼沼恵美子さんを迎え、芸術の秋に彩りを添えます。

今回は、澤クワルテット主宰者であり、日本の芸術系大学の最高峰東京藝術大学の前学長という経歴を持つ澤和樹さんに、室内楽や公演プログラムの魅力について教えていただきました。

室内楽のミニ知識 「室内楽」は誤訳!?

室内楽というとクラシック音楽の中でも地味で難しそうと敬遠される傾向があるようです。室内(狭い空間)でしこしこと演奏者が自己満足しているといったイメージをお持ちの方もいらっしゃるかもしれません。実は「室内楽」という日本語、これは誤訳といつても良いものなのです。クラシック音楽のふるさとヨーロッパでは、中世からルネサンス期には教会音楽が中心でした。その後、王侯貴族が権力を持ち始め、豪華な宮廷で賓客をもてなす。こういった機会に、宮廷抱えの作曲家が曲を書き、最高の演奏者たちによって演奏されたのがカンマー・ムジック(Kammermusik)と呼ばれるものでした。この場合のカンマーとは単なる部屋という意味ではなく、宮廷の広間を指す言葉であったにもかかわらず、Kammermusikあるいは英語のChamber musicが部屋での音楽、すなわち「室内楽」と訳されてしまったようです。

その後、市民が力を持ち始め、広いコンサートホールで多くの人が音楽を楽しめるようになり、より大きな編成のオーケストラへと発展してゆきますが、少人数での編成のものを「室内楽」と呼ぶようになりました。演奏者同士の息づかいも感じられる親密なやり取りは、オーケストラやピアノ独奏では経験できない音楽の醍醐味を味わえます。

演奏会前に特別解説

オール・ブラームス・プログラム

今回のコンサートでは、オール・ブラームスによるプログラムをお楽しみいただきます。最初は、ヴァイオリン・ピアノのデュオとして1976年の初共演から半世紀近い活動が続ける澤和樹と蓼沼恵美子による「F.A.E.ソナタから「スケルツォ」です。この曲は1835年にシューマン、ディートリッヒ、ブラームスの3人の作曲家の合作により「F.A.E.ソナタ」と名付けられたヴァイオリンとピアノのための4つの楽章からなるソナタのうち、ブラームスが受け持った第3楽章スケルツォを単独に演奏するものです。F.A.E.とは、19世紀にドイツを中心に活躍したハンガリー生まれの名ヴァイオリニストで作曲家、またベルリン高等音楽院の初代院長としても尊敬を集めたヨーゼフ・ヨアヒムのモットーであるFrei aber Einsam(自由だが孤独に)の頭文字F.A.E.をドイツ音名の(フ、ラ、ミ)に置き換え、シューマンの呼びかけに応えてディートリッヒとブラームスもこの(フ、ラ、ミ)のモチーフにより作曲し、ヨアヒムに献呈したものです。スケルツォは6分ほどの小品ですが、孤高の芸術家を理想としていたであろうヨアヒムの崇高な生き様を想像させる堂々たる名曲です。

続いては、クリストフ・ヘンシェル、モニカ・ヘンシェル、マティアス・バイヤー＝カルツホイに澤クワルテットの大関博明、市坪俊彦、林俊昭が加わって、ブラームスの室内楽の



澤 和樹

名作、弦楽六重奏曲第1番変ロ長調です。ブラームスは弦楽四重奏曲も3曲残していますが、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンのいわゆるウィーン古典派の先輩作曲家たちが、無駄をそぎ落とし、洗練の極として完成させた弦楽四重奏という様式は、ブラームスが生きたロマン派の音楽の潮流とは、相容れないものだったようで、弦楽四重奏にさらにヴィオラとチェロが加わって中低音の響きの充実を求めた弦楽六重奏はよりブラームスの好みに合ったものだったのかもしれない。この曲の第2楽章は、フランス映画の巨匠、ルイ・マル監督、ジャンヌ・モロー主演の映画「恋人たち」のテーマ音楽に使われたこともあり、特に有名です。澤クワルテットにとっては「デビュー間もない1992年にイギリスの伝説的な弦楽四重奏団、アマデウス・クワルテットの3人の巨匠たちと共演した忘れたくない曲でもあります。ヘンシールのメンバーともロンドンのアマデウス・クワルテットの講習会を通じて知り合い、30年に及ぶ交友関係の象徴ともいえる名曲です。

最後は、ピアノ五重奏曲へ短調です。ヘンシールの3人にピアノの蓼沼恵美子、第2ヴァイオリンに澤和樹が加わります。今年、ヘンセル姉弟にチェロのマティアスが加わった1994年を事実上のプロデビューとするヘンセル・クワルテットの結成30周年を記念して、6月から7月に掛けて、澤・蓼沼デュオは、ヘンシールの本拠地であるドイツのゼーリングゲンシュタット音楽祭とデンマークのHelsingør Music Festivalのヘンセル&フレンズ記念公演に招待していただきました。これらの演奏会でもこのブラームスのピアノ五重奏曲が演奏されます。ピアノ五重奏曲は、1864年に完成させたこのジャンル最高傑作のひとつですが、当初は弦楽四重奏に第2チェロを加えた弦楽五重奏として構想されました。しかし、前述のヨーゼフ・ヨアヒムやシューマン未亡人でピアノの名手だったクラ・シューマンの助言を受けて2台のピアノのためのソナタとして改作、さらにピアノと弦楽四重奏によるピアノ五重奏曲として完成するまで度々推敲を重ねました。ブラームスらしいこだわりとシンフォニックなスケールを持つ大作です。

出演者紹介

この演奏会は、澤クワルテットとヘンシェル・クワルテットのメンバーやピアニスト 蓼沼恵美子さんによる特別編成でお届けします。ほかの公演では観ることができない、豪華な顔ぶれについてご紹介します。



蓼沼 恵美子

東京藝術大学を首席卒業し、「安宅賞」受賞。澤和樹さんとのデュオ活動は45年以上におよび、国内外の音楽祭に招聘されています。ヘンシェル・クワルテットとは数多くの共演し親交も深く、CDもリリースしています。現在、昭和音楽大学客員教授、洗足学園音楽大学、桐朋学園芸術短期大学講師を務めています。



ヘンシェル・クワルテットと澤クワルテットが共演し、好評を博した思い出の公演チラシ。

ヘンシェル & フレンズ

〈ヘンシェル・クワルテット〉は、数々の国際コンクールで入賞、大阪国際室内楽コンクールで第1位となるなど、世界的実力を持つ弦楽四重奏団です。今回は多岐に渡る活動をしているクリストフ、モニカ姉弟とチェロのマティアスの3人が参加します。クリストフは、東京藝術大学をはじめ国際的な一流大学や音楽アカデミーでマスタークラスを行っています。モニカは、国際的演奏者であり教育者で、ドイツの文化政策にも携わっており、大阪国際室内楽コンクール2023では、審査委員長を務めました。マティアスは、2018年からコペンハーゲン・フィルハーモニー首席ソリストを務める傍ら、若手演奏家の指導にも邁進しています。

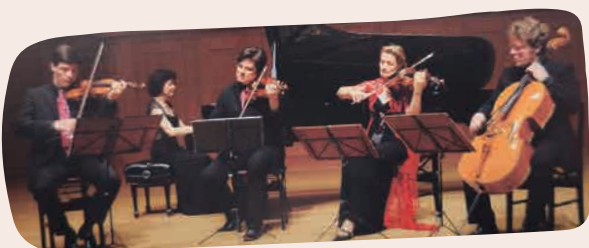


蓼沼さんとヘンシェル・クワルテットの収録CD。今回の公演でも演奏します。



澤クワルテット

澤和樹さんが率いる日本屈指の弦楽四重奏団です。1990年に結成され、現在も不動のメンバーで演奏活動を行っており、長岡リリックホール開館以来、毎年演奏会を開催しています。また、アマチュア音楽家、若手演奏家の育成にも精力的に取り組んでいます。ちなみに、第2ヴァイオリンの大関博明さんは長岡出身です。



ヘンセルメンバーと蓼沼さんの演奏会の様子。(2010年)

第22回 澤クワルテットコンサート with ヘンシェル & フレンズ 蓼沼恵美子

10/5(土) 開場 13:30 開演 14:00

長岡リリックホール・コンサートホール

全席指定 3,000円 ※未就学児入場不可

U-25 1,000円 ※25歳以下の皆様に舞台芸術に親しんでいただくための割引料金です。

チケット一般発売日 7/10(水) リリックm.c.優先予約 7/9(火)

〔曲目〕

ブラームス：F.A.E. ソナタより第3楽章「スケルツォ」ハ短調
澤和樹／蓼沼恵美子

ブラームス：弦楽六重奏曲 第1番 変ロ長調 Op.18
クリストフ・ヘンシェル／大関博明／モニカ・ヘンシェル／市坪俊彦
マティアス・バイヤー＝カルツホイ／林俊昭

ブラームス：ピアノ五重奏曲 へ短調 Op.34
クリストフ・ヘンシェル／澤和樹／モニカ・ヘンシェル
マティアス・バイヤー＝カルツホイ／蓼沼恵美子

ただいま猛練習中!

現在、8月11日(日)開催「リリック子ども音楽館」で、東京フィルのメンバーと共演する「おもちゃのシンフォニー」を猛練習中。
“良い姿勢で”、“正確な音程で”、“大きな音で”…と、それぞれ目標を立てて本番に向けて頑張っています。



大平 紗蘭 (小学3年生)

私がこの活動で楽しいことは合奏練習です。はじめての曲の合奏は、ちゃんと合わせられるかいつも心配になります。だけど、不安なのは最初だけで、その先の練習はとても楽しくなります。そして、私はリリックのシアターが好きです。あまり行かない場所ですが、時々使うシアターでの練習が楽しいです。8月は“子ども音楽館”のオープニングに出演します。出演した後で、みんなでコンサートを見るのが楽しみです。

五十嵐 夏芽 (小学3年生)

私が入団した理由は、祖母がヴァイオリンをしていて、興味があったからです。いつも練習ではリズムに気をつけています。どんなに音がきれいでも、リズムが乱れていたら、きれいに聴こえないからです。発表会に出た時、初めて大勢の人の前で弾いたので最初はとてもドキドキしたけど、やってみると達成感がすごくて楽しかったです。ほかの人に比べたらまだまだだけど、体と一緒に成長していこうと思います。



大塚 亮 (中学2年生)

僕は小学3年生から参加しています。参加した理由は、ヴァイオリンをやってみたくて思ったからです。初めはなかなか難しかったけど、たくさん練習することで段々弾けるようになりました。最近では、仲間と一緒に楽しく分かりやすく練習できるようになりました。今年度頑張りたいことは、“ポジションの移動”です。これまでやってきた曲では、ポジションの移動があまりなかったですが、練習してうまくなって、もっと色々な曲に挑戦したいです。



小林 茜 (サポートメンバー)

「皆と違うお稽古をしてみたい」、そんな娘の一声で始まった「リリック・ジュニア・アンサンブル」でのサポートメンバーも5年目となりました。弦楽器は敷居が高いと思われるかもしれませんが、このアンサンブルでは、サポーターの方や先生方が色々相談に乗ってくでるので、気軽に始められる環境です。また、夏に行われる“子ども音楽館”での東京フィルとの合奏では、700人の観客の前で演奏する機会に恵まれており、子どもたちに大きな自信を与えてくれます。更に、本年度より導入されたパートリーダー制により、団員同士の関係がより親密になってくれれば…と願いながら、今年も子どもたちをサポートしていきたいです。



西澤 佑成 (高校1年生)

私は小学生4年生で入団して、今年で7年目になります。毎年行われる、夏の“子ども音楽館”での東京フィルとの共演や、冬の“ジュニアフェスティバル”では、自分のスキルアップを実感し、自信にも繋がっています。また、アンサンブルを続けることで、周りの音を聴く力、調和する力が養われることで、4月からチェロのパートリーダーとして活動していますが、メンバーにアドバイスすることで、自分自身の演奏を振り返ることが出来、良い勉強になっています。高校生になり、忙しい毎日ですが、効率よく練習することに努め、プロの演奏家を目指し頑張っていきたいです。



参加者募集

ヴァイオリン・チェロ体験ワークショップ きらきら星をひいてみよう

7/27(土) 28(日) ① 9:00~10:00 ② 10:15~11:15

※両日の参加が必要です。※受講時間は①か②のどちらかとなります。選択はできません。

会場 長岡リリックホール 対象 小学1年生~6年生
定員 ヴァイオリン 20人 / チェロ 10人 ※応募多数の場合は抽選
参加料 2,000円(楽器レンタル料込み)
申し込み期間 6/16(日)~30(日)



詳しくはこちら

弦楽器をさわったことがない人集まれ!
みんながよく知っている「きらきら星」の演奏に挑戦しよう♪



講師：アンサンブル・オビリー

リリック・ジュニア・アンサンブル 【初心者クラス】新規団員募集

対象 小学1年生~6年生 ※「きらきら星」程度の演奏ができる方
参加費 10,000円 募集締切 8/9(金)

みんなで
楽しもう♪

リリック・ジュニア・アンサンブル

一人ではつくることのできない“ハーモニー”

リリック・ジュニア・アンサンブルは、弦楽器の学びをとおり、仲間と目標に向かって協力・努力をし、心豊かに成長してもらうことを目標に活動しています。

練習日では、パートリーダーが率先してイスや譜面台の準備をしたり、OBが低学年の子どもたちを優しくフォローしたり…と、互いに助け合いながら日々研鑽しています。そして、年齢の枠を超え、それぞれの個性を重ね合い、一人では決してつくりあげることができないアンサンブルならではの“ハーモニー”を楽しんでいます。

また、リリック・ジュニア・アンサンブルは今年で活動をスタートしてから10年目を迎えました。設立以来の指導者である片野大輔さんから活動への想いを語っていただきました。

“Easy come, easy go.”という英熟語があります。和訳すると、「簡単に手に入れたものは失いやすい」という意味です。最近ではインターネットなどで買い物も調べ物も簡単に言うことが出来ます。昔は1日かけて東京まで買い物に行ったり、知らないことを調べるのに図書館へ通ったりしたものです。大変時間のかかる作業でしたが、そうした苦労の元に手に入れたものは、自分の体にしっかりと刻み込まれ、大切な財産となつていきます。例えるに、すぐ入れるラーメン屋と1時間並ぶラーメン屋では、感じる味わいが全く違う…という感じでしょうか。同じように、音楽を学ぶには多くの時間と努力が必要です。弦楽器では、音を出すためには、弓の持ち方だけでも腕の角度、動かす速度、強さ、位置：等々、多くのことを求められます。しかし、小さな努力の積み重ねが一つの音となり、曲として紡がれていく過程は、子どもたちを心豊かに大きく成長させてくれます。

リリック・ジュニア・アンサンブルは、弦楽器のヴァイオリンとチェロによる弦楽アンサンブルです。そして、ここには小学生から高校生まで、年齢も学校も違う音楽仲間がたくさんいて、保護者の方やOB、OGによるサポーターに支えられながら活動しています。難しい課題曲も、皆で楽しく取り組んでいます。そして、リリックのステージで演奏したときに、メンバー全員で浴びるお客様からの拍手は格別です。このジュニア・アンサンブルでしか得ることができない、達成感と感動を多くの子どもたちに味わっていただきたいです。

達成感と感動を

指導者代表
片野大輔

現在、長岡市内の小学生から高校生と、保護者やOG、OBによる演奏サポートメンバーによる総勢35名が在籍しています。今年度は、リリックホールで行われる、“リリック子ども音楽館”や“リリック・ジュニア・フェスティバル”の出演に向け練習を行っています。

